

2010

3

FRI.

19

Orchestra

第二十六回定期演奏会

ベートーヴェン *Ludwig van Beethoven*

交響曲第5番『運命』 八短調 op. 67

サン・サーンス *Camille Saint-Saëns*

チェロ協奏曲第1番 イ短調 op. 33

チェロ独奏 藤田貢平 (東海高等学校2年生)

ショスタコーヴィチ *Dmitri Dmitrievich Shostakovich*

祝典序曲 イ長調 op. 96

東海学園交響楽団

～東海中学・高等学校男子生徒によるオーケストラ～

愛知県芸術劇場コンサートホール

開場 18:00 開演 18:30

入場無料 全席自由

お問合せ先 東海中学 052-936-5114 東海高校 052-936-5112

更なる感動を求めて....

東海学園交響楽団顧問 西村 尚 登

昨年は楽団創立25周年記念の行事として、現役のオーケストラは欧州記念演奏旅行を行い、オックスフォード大学の由緒あるシェルドニアン劇場で地元アビントン校とのジョイントコンサートを行うことができました。また、OBのオストメール・フィルハーモニカーは、カミヤトシエ・バレエ学園とプロコフィエフの『シンデレラ』全曲公演を愛知芸術劇場の大ホールで行い、多くの聴衆の方々に足を運んでいただくことができました。その節はありがとうございました。

そして、今年度は26年目として新たな歩みを始めています。昨年5月、ご招待いただいた東海中高父母懇談会総会において、今回の指揮者である服部洋樹(高2)が、ベートーヴェンの第5交響曲『運命』の第1楽章をとてつもない速さで演奏しきったとき、場内には異様とも言える感動のどよめきが沸きあがりました。その後起きた拍手はある意味熱狂的なもので、音楽の持つ霊力をまざまざと実感することができました。これがその後のビックイベントへの序章となるのです。

その総会に聴衆としていたある教員が、その年の秋に行われることになっていた名古屋ドーム祭典の総合芸術にこの演奏をぜひ組み込ませたいと、総合芸術の準備会で熱意を込めて推薦してくれたのです。その会議では色々な意見が飛び交ったそうですが、最終的には“私学の運命のかかったドーム祭典に相応しい”と決まったと耳にしました。しかも、総合芸術の一環として、2009年度NHK杯ダンス部門で全国2位になった光が丘女子高等学校のダンス部との共演ということになったのです。私はちょうど昨年の5月に行われた高校生フェスティバル新歓が愛知県総合体育館で行われた際に、このダンス部の演技を見て、その完成度の高さに目を見張っていましたから、この企画にすぐ賛同しました。入場してから退場するまで、光が丘の女生徒たちは一糸乱れぬ演技を披露していましたから。その時以来、この両者のパフォーマンスに胸をときめかせて待ち望んでいました。総合芸術全体の時間は30分なので、ダンスとオケの時間は5分にして欲しいとの要望が実行委員会から出され、『運命』の1楽章を5分で演奏したデモCDを作成すると、その速さでは演技ができないなどとのやりとりを重ね、最終的には6分と決まりました。その実際のパフォーマンスはYouTubeでご覧になることができます。光と音とダンスのコラボレーションはまさに“総合芸術”の名に恥じないものです。オーケストラとダンスの緊迫した競演に誰しも深く感動されると思います。冒頭の『ダダダ・ダー』というオケの叩きつけるような激しい音の中、布の中に静かに息をひそめていたダンサーが動き出し踊りだすのです。緊迫した音とダンスの競演には若者たちの魂の激しいぶつかり合いが感じられます。したがって、この26回定期演奏会は、それを更に深化させた感動が生まれるはずです。一流のものに出会った若者たちの成長振りが楽しみです。この『運命』は最初の海外演奏で演奏し、ミュージクフェアラインで7回のカーテンコールをいただいた曲でもあります。また、ひそかに私は“ゼロ弾きのゴーシュ”が練習に練習を重ね、聴衆に圧倒的な感動を与えたのがこのベートーヴェンの『運命』ではなかったかと最近思っているのです。

そして、チェリスト藤田貢平(高2)のサン・サーンスの『チェロ協奏曲』です。藤田もゴーシュのように一心不乱に練習を重ねてきています。音楽室で献身的に演習をしている彼の周りにはいつも別の空気が流れております。実際、私たちの心に染みわたる音色を生み出しています。そして私たちに生きる喜びを与えてくれます。素晴らしい才能が次から次に開花し連鎖していきます。チェロ協奏曲も、ハイドン、ドヴォルザーク、エルガー、そしてサン・サーンスと積み重ねてきました。

このようにして、感動の輪が更にひろがっていきます。ぜひ今回の定期演奏会にご期待ください！